

2025年6月20日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

株式会社タカフジによる攝津工業株式会社への投資実行

ニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区西新橋、取締役会長 安東 泰志、以下「NHC」）が管理運営する、ニューホライズン4号投資事業有限責任組合（以下総称して「弊社」）の投資先である株式会社タカフジ（本社 大分県大分市、代表取締役社長 佐藤隆彦、以下「タカフジ」）は本日付で、攝津工業株式会社（本社 熊本県水俣市、代表取締役社長 岩本博光、以下「攝津工業」）への投資を実行いたしましたのでお知らせします。

タカフジは創業以来、地元である大分県を中心に大型プラントの機械据付、鋼製加工品・配管製作及び各種総合メンテナンス工事を手掛けてきました。近年は祖業のプラント工事から派生する形で、バイオマス発電プラントの建設・運営、バイオマス燃料（木質チップ・PKS（パーム椰子殻））の供給事業、下水汚泥のバイオマス燃料化事業、地熱を利用した農場運営事業等を展開し、脱炭素や循環型社会の実現に積極的に取り組んでおります。

攝津工業は、1945年の創業以来、プラント設備等の設計製造業を展開してきました。溶接技術競技大会等での受賞者を多く抱え、特注品の大規模ユニット製作が可能な大型の製缶加工工場も保有しており、第一種圧力容器の製造実績は熊本県内でトップクラスを誇ります。長年培った技術と経験により国内外の企業に製品を提供しており、現在も弛まぬ技術力の向上に取り組んでおります。

本件投資によりタカフジと攝津工業がそれぞれ培ってきた強みを組み合わせることが可能となり、設計及び製造から組立までを一貫して担う大型プラントの建設や今後予定される炭化装置の開発によるバイオ炭製造等の取組みがさらに加速されることが見込まれます。このような取組みは、「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進に大きく貢献することが期待され、弊社の責任投資原則（ESGポリシー）や「意義ある投資で新たな地平へ」という弊社のPurposeにも合致するものと考えております。

弊社は本件投資を通じた両社のシナジー実現を支援することで、両社の企業価値向上に尽力する所存です。

なお、新組織体制としては、代表取締役は岩本博光氏が続投し、弊社及びタカフジから新たに取締役及び監査役数名を派遣いたします。

ニューホライズンキャピタル株式会社について

2002年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から、2006年10月の会社分割を経て、通算23年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,700億円超）を誇る。現在は、NHCとして6本目、創業から10本目のファンドを運営中。2002年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、フェニックス・キャピタルにおいて、三菱自動車、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラ等、また、ニューホライズン1号から4号ファンドにおいても多数の投資を実行し、ハウステック、シバウラ防災製作所、昭和コーポレーション、NITTO/平世美装等、開示可能なエクイティー投資先だけで約50社、全体では100社超の日本随一の投資実績を有する。

この件に関する問い合わせ先（弊社広報担当）：

インターナショナル・ファイナンシャル・コンサルティング株式会社

竹江、大谷 連絡先：03-5532-8921